



⑤	下の句あり	廿四丁	⑤	はくごまり	廿四丁
⑥	えゆとまり	廿五丁	⑥	こそてふえ	廿五丁
⑦	えのすてふえ	廿六丁	⑦	え極定はまり	廿六丁
⑧	治定とまり	廿七丁	⑧	まらえ	廿七丁
⑨	治定のり	廿八丁	⑨	まらえ	廿八丁
⑩	八字のり	廿九丁	⑩	百云のり	廿九丁
⑪	指合のり	卅丁	⑪	同字別吟	卅丁
⑫	句敷并去嫌	卅一丁	⑫	神祇之詞	卅一丁
⑬	非神祇詞	卅二丁	⑬	尺教之詞	卅二丁
⑭	非尺教之詞	卅三丁	⑭	徳之詞	卅三丁

①	非徳詞	卅四丁	①	無常之詞	卅四丁
②	速懐之詞	卅五丁	②	非速懐詞	卅五丁
③	人倫之詞	卅六丁	③	非人倫詞	卅六丁
④	居所之詞	卅七丁	④	非居所詞	卅七丁
⑤	夜分之詞	卅八丁	⑤	非夜分詞	卅八丁
⑥	山類之詞	卅九丁	⑥	非山類詞	卅九丁
⑦	水邊之詞	四十丁	⑦	非水邊詞	四十丁
⑧	四季之詞	四十一丁	⑧	面句并裏順奉句	四十一丁
⑨	百韻并四角歌仙	四十二丁	⑨	臨席覚悟	四十二丁
⑩	執筆法様	四十三丁			

○さうさうん 下二丁目 ○まうさうん入樂 下半亭

漢和式

- ① 第唱句之事 一丁目
- ② 二四不同之事 一丁
- ③ 四字一平之事 二丁
- ④ 避下三連之事 二丁
- ⑤ 平仄起之事 二丁
- ⑥ 漢和一座法式之事 二丁
- ⑦ 對句之事 五丁
- ⑧ 假名書之事 六丁
- ⑨ 連節字之事 七丁
- ⑩ 二物之事 八丁
- ⑪ 三物之事 九丁
- ⑫ 底返之事 九丁
- ⑬ 朱引之事 十丁
- ⑭ 文字用の様事 十丁
- ⑮ 家書文字之事 十亭
- ⑯ 四季文字之事 十亭

① 誹諧之事

貞義抄云溢書能借者滑稽之傳ハ妙多之傳ハ短不也
 史記滑稽傳考物云滑稽ハ酒器之云ハ古歲章句
 不窮竭若滑稽吐酒也○誹諧乃ちあはれきことく、あはれきま
 ちりて皆人戯言とあはれ必しもあはれけり今案に滑
 稽ハ軍ハ道入りあはれけてあはれなるもの之ハ能從ハ
 五道又あはれだ、あはれ多とらべて之奇之故又も滑稽
 以准そハ純無說利にあらりの言滑はどく、火と
 色水みいひあす也或ハ程云わく、あはれとあはれ

此中又母こめ詞よめらるる也

八雲御抄云或説曰俳諧有様三俳諧二詠諧三他唐四滑
物云五諧雅一詠一六謎字七空戯八部後九狂言一狂云
或義俳諧六部ものともいれぬ之俳諧六伴狂云ものとも
胡唐六部字ものともいれぬ之詠諧心ものともいれぬ之
つとねつとて清拙云はつとねつとて其の奥義掛たれど
謎字のさうくものさうく空戯一向は戯て実さくはたれ
部後つとて詠諧ものさうくはたれつとて其の奥義掛たれど
つとねつとて清拙云はつとねつとて其の奥義掛たれど

② 俳諧六伴

心弄説	みふ人れさるる俳のこもや秋の月	可全
詞弄説	乃ぐ付よふ代よろげ代やがり繩	正考
心利口	肩をまふら石素おさるいふとん	利を
詞利口	ほろもつよまけをきん	其角
心弄	小傾城ゆさこなぶらん年ね暮	こま
詞弄	系法もつた見たるふハ七云流	ありて他

右六伴引新いづもも奥義あは見えぬありん
能流のふもは六伴をいづる事かー我ら好こま
ありて他とそいばゆりまらんと也

三 能 諧 六 義

風

八雲指は風はうへをくもりてはま風はうへをくもりてはま

志はしむくしあらん今を對して

賦

八雲指は賦はうへをくもりてはま風はうへをくもりてはま

梅のまをまのこは名のとらけ 全

比

八雲指は比はまをくもりてはま風はうへをくもりてはま

うへをくもりの物はあまのり まま

真

八雲指は真はまをくもりてはま風はうへをくもりてはま

雅

八雲指は雅はまをくもりてはま風はうへをくもりてはま

まをくもりのりてはまのり 花盛 奉堂

頌

八雲指は頌はまをくもりてはま風はうへをくもりてはま

ちをくもりてはまのりてはまのり 其用

四 俳 諧 諸 部 發 句

神祇

船を力やまをり神も出る海はよ 朋水

釈教

煤をりてはまをりてはまのり 不ト

虫

年なや焼て侍夜の数をうま 危 芳樹

〇三
〇三

無常

ふもふ事れおるふもの秋の輝

晚山

表傷

かくはかから姿やほしうのふら

響水

群世

我らともも世に花の奉らむ

和及

進善

さしてはまふらうもも道とても

方山

懐旧

うらやまゆら子ももらほさう

仙臺

遠懐

秀の力やなきて菊もふけ

軒研

佳移

露岩荷葉秋くく人の心も

知足

名所

山吹やこころ蛙水の底

鬼貫

名物

おしとふやふか吹雪もも

尔云

鐵別

山河は忘るるもさへわらふ

霰艇

樹形

みらぬぬみさをめまや親らふ

暮四

法寶

月花たれぬぬことの 経連

念珠

彫像

あらしひり我もさひき秋たれ

全

契

かぐれや年くれ竹乃すぬ代

昔時

對

親ハ谷子ハ山名乃かほく

正由

文字

破とまふ分と人乃力ら

子春

古事

伊勢油巻や経たきくうは

素吟

本鏡

吾も白け下よきくし杜

成之

〇三
〇三

詩

子妹乃きよくいまこころ月

巨海

歌

いまこころ月

長之

世の中

世の中よふらちそふられちのあつ

常車

世の中

世の中よふらちそふられちのあつ

常車

世の中

世の中よふらちそふられちのあつ

鬼貫

世の中

世の中よふらちそふられちのあつ

似空

世の中

世の中よふらちそふられちのあつ

一曲

世の中

世の中よふらちそふられちのあつ

をま

世の中

世の中よふらちそふられちのあつ

かく

仁心

きやうあれとそふられちのあつ

はま

聴望

晴をひて筆にまじりや雲乃存

ら圭

秀白

何らうーかろふりるれ着け酒

正由

云うけ

乃こまむいふす雲代かたの白ひ

貞隆

たふ

くよ乃月綿へ掛らる茶碗ふ糸

奉堂

足ん

をみ尾れ一の巴や雲乃犬

鞭石

あそ

はくまれて中乃ひらる蓮うれ

ひま

重羽

住者乃とまつく涼一三た月

鉄曲

たれ

鶯う毒乃こえごとふ蠶を

保了

心能強

神能強

心能強

實能強

老能強

地能強

能強

感能強

能強

心能強 ちひして地をきき柳

神能強 猫乃ごまのりひ乃貝也斤抄ひ

心能強 回強をらよちかんけいしりぎき

實能強 月夜をら柳ちりれ心あふらる

老能強 くらぬやんぬいれ様からし

地能強 傘エが目私を星に子向ふ

能強 星よよよと三月七日八日

感能強 龍が身は柱凡さし一柱三人

能強 去のよよとあくよといをい

戈丸

琴風

鷺助

素堂

色空

僕石

信徳

松尾

日

けいこくさ
かきもの

あふふふふふふ

あふふふふふふ

あふふふふふふ

あふふふふふふ

あふふふふふふ

破き葉の石南の移出次鱗

上童もやも線乃ほぐさき

毒よひは様くまうは柳

星に七々半一蠅

地よぎはく屋のいさうん天所

龍が身は柱凡さし一柱三人

三ヶ月の柳ふがしれ髪をい

髪乃ぬびり為さる柳のい

捕られ花り平に土野

調柳

西吟

竹亭

常矩

道柯

如泉

不角

琴尾

行秀

そよ成て首ほくらちてふも
味なくふらんぬぐはてうら
錯乃もて蓮さくふ事ちん
蓮瓶乃せとい中まうき葉
六月や筆の雲とく嵐山
如き昔や流れ槽と地と捨小舟
麦冷一宿とふ入どつう終り
蓮池の生れてきれ蛙うれ
瀬乃流とか人志とる流り

二水
か扇
目悦
明水
と長
藻水
荷号
言水
和及

ぬろくなくきき
三芳野の花はほくはてふも
妹乃若打やふさじと回ひら
多んうらきき
花のき風や柳うもの志

作者如
越人
梅盛

五 俳諧三十体

遊云 日よあまのみるも
行雲 天もむらうらやせけみ
廻雷 月れ相もやまの月ひら
張鶴伴 筆乃中まうらふも
高山 名月や筆乃人よまの影

立圃
凡北
聖多
其角

蓬白 澄河 聖徳 物 不 理世 狂民 至極 麗体

月乃名を許り多勢や天海丁
婦よとむむ水すはしや法乃城
世よつきて道踏あしやうぶり
兼はぬ母のた世一しきこ
衣の中は透はし聖う浅きあ
妹凡乃取まらり人老良
山中や菊はもれど湯は白し
兼あもて鶯竹よけり春
ちんせや祝とたこ所帯れり

立物 極更 友九 明水 玉後 松子 晨風 暮四

花麗 松竹 作竹 野可 考逸 松群 写古 面身

鳴さう風虫を花よふ友聲は
あつ雲とくるとまのあり松竹
つこもわらわのむれり
里うすそ夕をねりさうらふ
元日や赤よゆりれを口くむ
唐塔乃本ふむらねりあて
乞つくとらうむ乃や乃山
都丹よりあつたあつらう
たつとての雲まの赤れまをび

一笑 竹亭 常友 野うら 玄来 山室 来山 云々

一多無

寫乃三足よ成て夕うか

ん圭

系曲

松清也日外との幸有れりや

維舟

豊本

うくもわん薪花咲垣根りか

こまを

足様俾

しりにきす粧もやういささう

心査

下野俾

富きよ八月を元蝶やふれ月

其角

松原新

何をこし皮背乃八月人たりり

鬼貫

強力

本を伐て投ゆらるる乃月

明水

三 誅諧大意

池階乃白とら系以志ねくたりや今たの作とて

つと用也一此らら海河のつがを知らせらるる也

とて網をとり那控らるる一ゆく控へ後字を能階也

又連能两用の如しつらるる或ハ几帳屏風詩及中

の系能連うとをうり能考方とを用る但し是

とめるゆも蝶菊やうの甚る能あつてならん

あつて一節も他り歌う終らるる葉ありや

連は例なく、能のゆもあつて一或ハたうき

とての系とたうと法くおとじらんこれ中

う事一字能をとりし人母よりきくも

つうのくもを流され鶴が花

又

虎は尾のくもを流され鶴が花

の毒やにけりぬらうの後ま

花のくもを流され鶴が花

八鶴が花のくもを流され鶴が花

虎は毒の毒のくもを流され鶴が花

つうのくもを流され鶴が花

作られたくもを流され鶴が花

乃花の人のかたむかへぬ思ふもむかへぬ
はもふうかむかへぬ思ふもむかへぬ
のうくもを流され鶴が花

花のくもを流され鶴が花

鶴が花のくもを流され鶴が花

つうのくもを流され鶴が花
はもふうかむかへぬ思ふもむかへぬ
其語謂之換骨はつうのくもを流され鶴が花
つうのくもを流され鶴が花

CC

CC

け門み躍し中をさるるからし
 こはるふののしつ初春別乃相も規操其意形
 客之謂之集胎はとりおせりしやゆらん

(五) ぬれ心切字

洛之の飛 為墨りきくたれた林哉
 櫻外帯乃きれたあめりあすで
 蝶うらしはなきもひとりの
 ことばはあはきくはひとりの
 霜たもやうとくもいふ人あつま

信徳 集堂 湖春 林下 一言

かとも かくもが初雷けりあびり
 尺志りあるは代もがひあきうら
 うり こまうりけり海乃若をれ秋のくれ
 木の 此果有けり海のとこ
 柱けりあ縁殊され乃あつたをこ
 せん くも東向人月の暮
 都らん小桶と鈍花うら
 独乃る海はらうとん 松あ
 風志れおとくはあひ里

知足 信正 一鉄 言泉 桃雨 系衣 高政 園也 如琴

うり 大みしれ水乃し人となさるるめり
 和之
 たり いまのまのこまうり合ら不板に
 桐葉
 山 山
 竹葉 竹葉
 野水 野水
 又鏡 又鏡
 竹葉 竹葉
 東海 東海
 何ものしーわくは隠袋裏より人

常規 常規
 松笛 松笛
 土芝 土芝
 軒柳 軒柳
 蓮蓬 蓮蓬
 方心 方心
 嵐石 嵐石
 石支 石支
 草草 草草
 花有て大ねしーくねしめり
 けが碎く養家てけし地の花
 くらへるおよあるとらあ真ん中
 行女みりりかーしー神くさね
 蟹膏者峰より喜めりしるる雷
 せ先て魚乃骨換のこぞ生ん魂
 産ど女乃雛かーしーけり表れ身
 白くお伽瓶よ根を燦松る
 唐乃若地いしぞまきりう八

か
か
中
裁
や
ろ
し
ま
ま

傾城は親みとがか他乃
流系乃のりる引曳がたか
葉乃西を根とく根一引
うらまにせくとも外聖
福多葉やいぬ方か
くくく非れ科く人
えれがくをめくくま
白魚價りるくくく
青いぬまめくくく

水
泉
根
及
一
富
木
葉
葉

い
い
い
い
い
い
い
何

鶴はくくく扇くか
扇わいよゆける
森ゆいばき階
橋丸はと陰いづ
けうま本社はい
築地つるゆら
いよきん御札
五月雨何を系
水仙はとや何

竹
千
葉
義
羅
竹
翠
石
翠

あは	い	ま	ま	ま	か	い	さ	い
人はいかにあはれなるか あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮
岸水	其角	尚白	清三	常牧	明水	玄賢	李吟	軒栞

い	い	い	い	い	い	い	い	い
あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮	あはれなる人なるは乃暮
芭蕉	竹伴	自隆	幸化	山店	不邊	光雪	松木	赤雪

上
下

や

こゝろは 秋 枯 丹 乃 念 ぶ あり こと 久 九
 こと しく ち みる こと こと 實 け こと こと 櫻
 水 こと こと 蝶 色 雀 由 ぬ こと こと 其 角
 花 きれ こと こと こと こと 人 こと こと 不 及
 夜 露 こと こと こと こと 初 雨 雨
 白 雲 乃 こと こと こと 月 乃 こと こと 梵 介
 雲 乃 こと こと こと こと こと こと 軒 栢
 乃 こと こと こと こと こと こと 如 生

下知

よきへうあせり

う 乃 乃 こと こと こと こと こと こと 事 林
 心 乃 こと こと 定 電 乃 こと こと 事 群 山 竹 翁
 乃 乃 事 乃 こと こと こと こと こと こと 竹 亭
 帯 位 こと こと こと こと こと こと 事 堂
 ち こと こと こと こと こと こと 事 道 村
 け こと こと こと こと こと こと 事 如 泉
 こと こと こと こと こと こと 事 正 時
 こと こと こと こと こと こと 事 我 思
 唐 詩 乃 事 乃 こと こと こと こと 事 春 林

れあきてらひかへり又らひて切字に用ひたるまじり
俱由^ス用ひらるるもなまひ^スなまひ^スなりぬるなりぬる

二字切 日と書ぬくやまゝのまむ七々 風虎

ほも一の矢とてしんニツ星 風山

三字切 ことくたよ何乃まもや梅乃花 真室

○とほり乃切字

おむすはこさとも晴と花乃書 土香

葉よりく福乃あゆると門の妻 一森

○とよ切字は有て下と書留

煤やとくゆざら 京乃まらぬ 梅洞

傳よま後よまするま又字をえれと一切字有るなりとて

○とり留

ちろひ茶屋もむる人お成よなり 可全

初夜と何りあつくそふ娘の夜よなり 来心

傳よま七又字の教とよと押らひらりまも守程は又有り

○三名切

同母の葉やまふかしくまの初結 素堂

三辰切ともなり

〇〇

〇〇

〇大あり

くらまて天か東の海へく先 虎海
くらまて海へく先

〇三舟切

思くまねハ三舟切の海へん 林園
れんまのりまの三舟切の海へん
初人の筆も大舟切の海へん

〇切まのり

まのりくまのり切まのり野山 真堂

〇

余の若いあそびかきくもく代業 和及
懐かれてきくぬる人そ乃 地 其南
これくは白の切字系列の事人切 候く初まて
まのりまのり切まのり

右切字も大概とゆふゆりれまのり切字宅
の切字の切字もくくまのり切字
白と尺ゆりまのり切字ゆり

おとあ ぬるゆり切字ゆり
まのり切字ゆりまのり切字ゆり

〇〇

〇〇

くる人おりのさきくさといひゆる

松の食ひのさきくさといひゆる

又おきの乃二さの連歌のさきくさといひゆる
味り、海海門船よ人の用いあるもさきくさといひゆる
白きくさといひゆる

⑦ 現在乃哉 くさ哉

現在乃哉 麦白トトサウラハ海草花を詠
くさ哉 十四夜は月れそめ
こわいさきくさといひゆる 船まきつたては海をりてゆる

⑧ 三十一 現在未集

あろーきーきー経ー けれ現在

べーあーみきーきー けれ現在

此ゆりの現在未集すといひきも切字

あーあひーきりしきり けれ現在

これ切字よあきゆん

⑨ おりぬ 不乃ぬ

たると たると 不 たると 不 たると 不 たると 不

右ぬ乃字下は各りあけりひては地心平なり

乃がくはぐりてきこゆかよとらうぢうて切をゆき
又たね下細きくいなう声たうくしきぬもらうぬ
こも成事一あり

尺くぬきえぬもれぬもぬぬぬぬぬ

きくげせくえかたれもくせぬぬぬぬぬぬ
くまきくくくくくくくくくくくくくくく

①七のうたは流事

日あひのち んが香と君もくくくくくく

此のハ象の切まもぬまらんと留事一

てんあひのち

切や お猶乃癒やまじりて^{カキ}葉は残らん

此やふよ有とたいたいよりのあし守

控や 赤泉^{ヒライクニ}たわう月乃すの志事か

疑乃や ちうひまや室^台もあてこはらん

此やふよ方毎ていよりのあし守のあし守

あやあしんあしんあしんあしんあしんあしん

中乃や 雪と松^{カサ}や横^サりあみえて

も 何處の道は行くことばなりけり
切らぬ 携へ世よ道なき切らぬ余も
ま 都野松とて今も不自中にて

此亦一又

教生合謀の海なる教へし

信じていふは教生合謀の事なりけり
きこしめをいふは教生合謀の事なりけり
二所一抱の事なり

笑植と一花とありけり

又牛のいふはさるる事なりけり
おろろとてさるる事なりけり
うやむけ虚字ありはべし
て

① 引かぬの字と押字

そ 魚乃名と何れとてさるる事なりけり
ろ 幾の如きとてさるる事なりけり
よ 今とてさるる事なりけり
あはれとてさるる事なりけり

かたきんくしきま

⑤ とうようびのひつみ字有しての留家は様

ねんちのちの何しきよきかたれびのまきみ
うづしれ字有してのまきよのまのびりかたれ
まきよのまのびりてまき

いよまきんあかむむのねまき

いしりまきまき植のねれあみまて

いづこまきいづこまきまきまき

口徳まきまきまきまきまきまきまきまき

物とけり定まらぬあまの留あてたかま

⑥ 下乃ちあてとち

陽のいぬまきくくく

中よひとつハ飛とたのら

此なるれあまのまきくくく

⑦ 下乃ちあてとち

舞ハまきくく月ハまきくく

下れる乃ちまきくくくくくくくくくく
用ひまきくくくくくくくくくくく

⑤ 留

まゝのりつと座と指乃のすまひ

ふまのりつと座と指乃のすまひ

藪尻校ありのりつと座

下は白のりつと座と指乃のすまひ

と申すは又もかくてもあるなり

佛の母のりつと座

のりつと座と指乃のすまひ

あつたつと座と指乃のすまひ

⑥ 留

まゝのりつと座と指乃のすまひ

小椽繩平と人おゆり

門徒乃家うかぢのりつと座

伏見れ焼場もあつと座

まゝのりつと座と指乃のすまひ

細りあつと座と指乃のすまひ

暮かた目つと座と指乃のすまひ

遠う火ひつと座と指乃のすまひ

ゆむふぬ川すまう

川

川

丸を此袋に放りし 中にも

六つおやうしんもさるなり又おやくしてそ
留しん御もあうしんおやくおかくておるハ
せかじきしん也

①式しんていけせいでおえかいたるし

ねてせけ
きうしてさく袖とくをわかし
肝とくもはく也 煉耳のわく
炭灰しんを 燻とくしん
言は葉よ骨おしんていけせいで

へめれ
徳めれしんを人をもやま
親乃めるうられしんを人にかま
筆^{シラウ}ぬしめたる西月をわしん

こけお ちよおのあかんさるもあつてあつてあつて
さしんをあひしんをえんとしんをあひしんをえ
①丸しん乃とんよお花葉

十九 伽那とめて侍とてあつてあつてあつて
十八 塔風よ何直経しんを強乃しん
十六 くれあつてあつてあつてあつて

傳
列
列

受人何の物もたすべし
とていふてあそびに遊ぶもよめいふへい梅の枝も
ゆふくもあそびに

⑤ 下は白三三三三

たのしみはあそびに遊ぶもよめいふへい梅の枝も
ゆふくもあそびに
あそびに遊ぶもよめいふへい梅の枝も
ゆふくもあそびに
あそびに遊ぶもよめいふへい梅の枝も
ゆふくもあそびに

⑥ 下は白三三三三

あそびに遊ぶもよめいふへい梅の枝も
ゆふくもあそびに
あそびに遊ぶもよめいふへい梅の枝も
ゆふくもあそびに
あそびに遊ぶもよめいふへい梅の枝も
ゆふくもあそびに

④文字傳乃傳
 文字傳はたまりて一書一巻なる傳りたる
 ことありて一書一巻なる傳りたる
 ことありて一書一巻なる傳りたる
 ことありて一書一巻なる傳りたる

④指合之少伝

一乃の少伝とらるる連歌抄式もあはれ
 五乃品宿一切と別と用抄中抄抄
 これ皆宗近抄巻乃のあはれと
 貞徳の連歌一巻は四乃のあはれ
 ことありて一書一巻なる傳りたる
 ことありて一書一巻なる傳りたる

〇三

〇三

千の兵^{チノヘ}控^{マツ}を^ヲ席^{シヤク}に^ニ坐^マう^テ舞^{マシ}舞^{マシ}も^ハ吹^フく^ハ白^ク敷^キを^ハ好^クひ^クと
 半^ハ柄^{カマ}と^ハい^ハふ^ハ人^{ヒト}の^ノ心^{ココロ}を^ハい^ハて^ハい^ハふ^ハの^ノ節^{フシ}に^ハ人^{ヒト}の^ノま^まの^ノま^ま
 一^{ヒト}と^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハ
 か^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハ
 後^{ノチ}に^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハ
 や^やの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハ
 あり^{あり}の^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハ
 一^{ヒト}と^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハ
 か^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハか^かの^ノま^まを^ハい^ハふ^ハ

㊦ 同字別吟

春^{カスガ}日^{ハル}は^ハま^まも^も目^ヒも^も 鏡^{ワタシ}裏^{ウラ}は^ハ衣^イの^ノ物^{モノ}を^ハ我^{ワガ}の^ノ物^{モノ}
 物^{モノ}鮮^{セン} 勅^{チク}令^{メイ}は^ハ今^{イマ} 弥^ミ池^チ跡^{アト}勅^{チク}は^ハ跡^{アト}代^{ダイ}は^ハ代^{ダイ}物^{モノ}
 閑^{クワン}白^{ハク}は^ハ冥^{メイ}中^{チュウ} 風^{フウ}は^ハ中^{チュウ} 南^{ナン}無^ムは^ハ無^ム水^{スイ} 操^{ソウ}は^ハ
 操^{ソウ}行^{コウ}は^ハ仍^{ニョウ} 軒^{ケン}は^ハ花^{ハナ}の^ノ推^{オシ} 波^ハは^ハ波^ハ 將^{ショウ}を^ハ皇^{クワン}
 天^{テン}智^チ天^{テン}皇^{クワン}は^ハ天^{テン}目^メ 主^{シュ}水^{スイ}は^ハ水^{スイ} 比^ヒは^ハ比^ヒ 金^{キン}は^ハ金^{キン}
 子^シ孔^{コウ}雀^{ソク}は^ハ雀^{ソク} 孟^{メイ}蘭^{ラン}盆^{ボン}は^ハ盆^{ボン} 三^{サン}日^{ニチ}月^{ゲツ}は^ハ日^{ニチ}

三言 族

三言 族の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 生類

三言 生類の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 植物

三言 植物の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 名所

三言 名所の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 状分

三言 状分の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 隙物

三言 隙物の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 後年物

三言 後年物の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 生類

三言 生類の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 植物

三言 植物の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 衣類

三言 衣類の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 國名

三言 國名の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 風象

三言 風象の多し世に下りてのふき族の字を三

三言 天氣

三言 天氣の多し世に下りてのふき族の字を三

神祇之類

大掌會

新掌會

日蔭のて日蔭のて

宮居竹乃

法

荒法 かつらうの法

多の居

朱ねのりのお

丸木

丸木の法

行うた

手本乃

孫殿

孫殿の法

約大

手本乃

長安

長安の法

御

御

御

御の法

夏

御

社

社

神示 カシラ 里非手 シラ 神輿 ニニ 祭 ニ 拂 ニ 元 ニ 作 ニ 元
 御幣 ニ 大 ニ 神 ニ 色 ニ 位 ニ 宣 ニ 多 ニ 想 ニ 御 ニ 湯 ニ 立 ニ
 拍掌 カシラ 迎拍 ニ 忍拍 ニ 御 ニ 闡 ニ 御 ニ 贖 ニ 物 ニ 本 ニ 修 ニ 儀 ニ 代 ニ 水 ニ
 御火 カシラ 燒 ニ 燗 ニ 齋 ニ 精 ニ 物 ニ 忌 ニ 誓 ニ 言 ニ 多 ニ 起 ニ 請 ニ 氏 ニ 神 ニ 氏 ニ 春 ニ
 打火 カシラ 契 ニ 鎮 ニ 守 ニ 三 ニ 寺 ニ 洗 ニ 米 ニ 儀 ニ 夫 ニ 禱 ニ 馬 ニ 胎 ニ
 教 カシラ 生 ニ 會 ニ 岩 ニ 糸 ニ 德 ニ 在 ニ 依 ニ 祿 ニ ち ニ ち ニ 子 ニ 玉 ニ
 常 カシラ 陸 ニ 市 ニ 東 ニ 社 ニ 乙 ニ 女 ニ 子 ニ 伊 ニ 濟 ニ 講 ニ 初 ニ 午 ニ

小 カシラ 忌 ニ 衣 ニ 大 ニ 忌 ニ 衣 ニ 庚 ニ 申 ニ 待 ニ 月 ニ 待 ニ 日 ニ 待 ニ 遷 ニ 宮 ニ 祭 ニ

非神祇綱

元 カシラ 方 ニ 年 ニ 法 ニ 男 ニ 山 ニ 依 ニ 保 ニ 娘 ニ 龍 ニ 田 ニ 娘 ニ 栲 ニ 娘 ニ
 新 カシラ 神 ニ 抄 ニ 文 ニ 教 ニ 生 ニ 川 ニ 焚 ニ 山 ニ 伏 ニ 拂 ニ 上 ニ 巳 ニ 乃 ニ 後 ニ

西尺表之類

佛 カシラ 像 ニ 本 ニ 像 ニ 度 ニ 像 ニ 立 ニ 像 ニ 元 ニ 祖 ニ 祖 ニ 心 ニ 門 ニ 跡 ニ 院 ニ 家 ニ 国 ニ 際 ニ
 僧 カシラ 祿 ニ 禪 ニ 師 ニ 律 ニ 師 ニ 長 ニ 老 ニ 上 ニ 人 ニ 和 ニ 尚 ニ 西 ニ 堂 ニ 東 ニ 堂 ニ

首座 ホウゼ 卷主 マキヌ 典主 テンヌ 書記 ショキ 行堂 ギョウドウ 僧正 ソウジヤウ 僧都 ソウトウ 法衣 ホウイ

法眼法橋 ホウガンホウキウ 阿闍梨 アヤカリ 持披 チヒ 頌字 ソウジ 坊友 ハクウ 法師 ホウシ 法師 ホウシ

禪門入道 ゼンモンニウダウ 多心 タシン 新多心 シンボクシン 比丘 ヒク 比丘尼 ヒクニ 尼坊 ニハク

坊 ハク 大坊 オホハク 六坊里坊 ロクハクリハク 僧 ソウ 老僧 ラウソウ 小僧 コソウ 出家 シュツガ

沙门 サモン 桑门 サウモン 釈氏 シヤクシ 沙弥 サミ 寺 テ 律寺 リツテ 真寺 マシテ 山寺 サンシテ 古寺 コシテ

三井 サンシ 初集 シュツシュツ 塔中 トウチュウ 堂 ドウ 後堂 ゴウドウ 古堂 コウドウ 护广堂 ゴクワウドウ

伽藍 カラン 塔 トウ 尾塔 ビトウ 中塔 チュウトウ 石塔 シヤクトウ 九塔 クウトウ 鞠藏 キウザウ 回廊 クワイロウ 方丈 ハウシヤウ

厨 ク 眠花 メンカ 屋 ウチ 行人 ギョウジン 山伏 サンボク 陀 ダ 輪室 リンシツ 加波衣 カハエ

珠敷 シュフキ 帽子 モウシ 花四 ハナシ 鉢 ハツ 拂子 フキ 印 イン じ ジ ぶ ブ

修化 シュカ 修行 シュウギョウ 導師 ドウシ 唱食 シヤウシキ 鉢扣 ハツク 看經 カンキョウ 外塔 ガイトウ

五輪 ゴリン 素絹 ソクケ 十德 ジュツトク 以襟 イキン 像懸 ゾウケン 金剛杖 コンゴウシヤウ 杖 シヤウ 喚鐘 ケンシユウ

危持 カチ 統鉞 トウケン 鱗木魚 リンボクイ 瑠璃 ルリ 經帷子 キョウイ 辨 ヘン 系 ケイ

談義 タンギ 論義 ロンギ 座禅 ザゼン 灌頂 カンテイ 施我 セカ 布 フ 施 セ

功德 クツク 因泉 インセン 地獄 ジゴク 流摺 リウジ 三皮 サンペイ 十皮 ジュウペイ 常灯 ジョウテイ 火 カ

出家者 シツケ
 形尺 カシノ 形尺 カシノ 形尺 カシノ
 歌此五危 ウタヒコノ 歌此五危 ウタヒコノ 歌此五危 ウタヒコノ
 口似 クシ 口似 クシ 口似 クシ
 父無子 フナシ 父無子 フナシ 父無子 フナシ
 水鏡 スイキョウ 水鏡 スイキョウ 水鏡 スイキョウ
 子持鼻化 シテヒナシ 子持鼻化 シテヒナシ 子持鼻化 シテヒナシ
 心中 シユウチュウ 心中 シユウチュウ 心中 シユウチュウ
 心 中 心 中 心 中

都 ツ 都 ツ 都 ツ
 下級 ゲキウ 下級 ゲキウ 下級 ゲキウ
 揚 ユウ 揚 ユウ 揚 ユウ
 虎 コ 虎 コ 虎 コ
 面 オモ 面 オモ 面 オモ
 化 カ 化 カ 化 カ
 非 ヒ 非 ヒ 非 ヒ
 非 ヒ 非 ヒ 非 ヒ

非 ヒ 非 ヒ 非 ヒ

寺台寔ツヤ分タ院タ堂タ皇タ后タ内タ裡タ塔タ伽タ藍タおタ之タ寔
祛タ眠タ花タ庫タ意タ柱タ色タ去タ寺タ堂タ外タ公タ籠タ

置 和分之詞

祿タ系タ月タ星タ七タ夕タ樓タ愛タ道タ具タ長タ教タ分タ
縮タ妻タ宵タ也タ曙タ曉タとタ之タ雲タ乃タ亦タ之タ月タ字タ
月タ乃タ入タ的タ方タ乃タ的タ殘タ暗タ東タ雲タ表タ是タ梓タ双タ綿タ
恒タ表タ市タ炬タ灯タ終タ桃タ蛇タ行タ蛇タ燭タ基タ漢タ火タ

焚タ火タ埋タ火タ房タ更タ床タらタ之タくタとタ也タ火タをタとタろタ

又タ夜タひタびタきタ狐タ懸タ射タ蚊タ火タ為タ別タのタ鳥タ

龍タ蒼タ道タ乃タ之タ犬タかタ了タくタ書タくタくタ魚タ東タ雲タ

蝙蝠タ螢タ持タ舟タわタがタ火タ短タ繁タ送タりタ火タ油タ快タ

仲タ實タ外タぬタごタとタ博タ深タ起タ衾タ鏡タ海タ帛タ燭タ

千タ燭タ舞タびタのタごタ枕タ敷タ胤タ多タはタ夜タ初タ多タ物タ

川タ規タ將タ人タ龜タ蒲タ園タ鈴タ灯タ涼タ文タ清タ至タ燧タ火タ燎タ

ねむる天竺川星と唱倣え長く細代床出
買産女化物夜焚过看

○異 此夜分納

清灯 寝る 交神系 三乃睡 夕る 夜燈火
草火泊夜を侍月夕月夜柳火燈常此燈
床伏一夜酒得電明く山家
夕泊舟三ヶ月出 朝胡々我月々我寝度

練の床泊待入桐多幼夢現

○異 山類之納

山嶽岡洞祖坂谷沖尾上高根林游
持松本炭竈山姥山姥浮島小堀小堀松崎
山梨乳山鳥乳山河く実
葛城 久米のそ 九折畑 山崎の山崎の産

○異 此山類納

山

山

三 流木 氷急田井 月出垣 小湾 依漬 喜井
里の巻 水を強火 灣 恒吉井 三井寺 法見寺
志賀村 大津 明石 粟津 傾广 松崎 三崎 岩橋
梁 糸乃 雄波津 浦より 粟八 柳 漢子 佛

⑤ 牝糸巻廻

雄波寺 志賀 恒吉 又井 粟津 糸乃 橋 洞
三崎 粟八 柳 漢子 佛

年 糸乃 布 糸乃 宝 糸乃 洞 糸乃 田 糸乃
苗代 谷 屋 横川 小田 井 井 糸乃 水 鴨
菅 糸乃 後 龍 粟津 糸乃 糸乃 早苗 天水
岩 糸乃 蓮 肉 糸乃 貝 蓮 糸乃 糸乃 魚 糸乃
貝 鶴 乃 摺 糸乃 糸乃 摺 乾 糸乃 糸乃
糸乃 糸乃 糸乃 糸乃 糸乃 糸乃 糸乃 糸乃 糸乃
糸乃 糸乃 糸乃 糸乃 糸乃 糸乃 糸乃 糸乃 糸乃

上

四

四方祿

星とらふ 元正寅乃時とくく公房星とらふ

天竺の星とらふ 天竺の星とらふ 天竺の星とらふ

天竺の星とらふ 天竺の星とらふ 天竺の星とらふ

天竺の星とらふ 天竺の星とらふ 天竺の星とらふ

天竺の星とらふ 天竺の星とらふ 天竺の星とらふ

天竺の星とらふ 天竺の星とらふ 天竺の星とらふ

天竺の星とらふ 天竺の星とらふ 天竺の星とらふ

天竺の星とらふ 天竺の星とらふ 天竺の星とらふ

天竺の星とらふ 天竺の星とらふ 天竺の星とらふ

天竺の星とらふ 天竺の星とらふ 天竺の星とらふ

天竺の星とらふ 天竺の星とらふ 天竺の星とらふ

院祿礼 一目院祿礼 一目院祿礼

祇園もたりの多の神事 元徳の年

徳乃の 元方棚 毘門のくく

美あひあ 門乃神棚 門松のり

かぶりのあん 門乃神棚 門松のり

いせあひあ 門乃神棚 門松のり

のいせ唐の事 大ぬく 具足乃祿

からあ 元日 雜煮い

〇三

〇三

〇三

〇三

白馬節會 七日 正月 墨辰日

人日 七 人と懐妊 七日 人をとま 菜摘河神

事 七日 箕尾富実 七日 玄宮院 御修治 宿直人

御斎 八 女叙位 八日 女王様と嫁人 八日

大元師 八日 常陸常乃神事 十日 鹿嶋乃 明神乃

除月 十一日 十二日 十三日 十四日 十五日 十六日 十七日 十八日 十九日 二十日

夷余 十日 帳内 十日 懸召乃

御斎 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

我 無鬼 三迷 十五日 花炮 十五日 唐よ火

上元日 十五日 御新 十五日 油所 十五日 栗果乃

御粥 同日 師子乃神事 十六日 賭弓 十八日

厄神 十九日 益民お来 十九日 厄除へ

御粥 同日 師子乃神事 十六日 賭弓 十八日

厄神 十九日 益民お来 十九日 厄除へ

御粥 同日 師子乃神事 十六日 賭弓 十八日

厄神 十九日 益民お来 十九日 厄除へ

御粥 同日 師子乃神事 十六日 賭弓 十八日

厄神 十九日 益民お来 十九日 厄除へ

吉田清稜 十九日 具足坊後

二十日正月 魚解と榮

伊都波鴻

祭 下美日 内裏 十日に赤歌してはてさるゝ人歌をさる

外記乃波 御忌 十五日 福来草 九日ま

節振葉 東風 小中くふ

凍くくれ 魚抄さる

常心くふ

雨水乃節 柳魚と祭 水鳥轉

木乃月 下のえ 莖立 寫菜 水入菜

あまの 野葱 菘菹

ゆまけふらふら 根白草 茨子けら

紫 野大根 梅

香袋又素 備名柄 行幸柄 信原素 柳

川乃いさ 柳 岩柳 杲鳥

鴛 百千鳥

木地燵縁 依保非乃ざの 同く

暖め心 河還 ぬき系 飯室

万楽 春鳥 梅うえうま 大井うま

子月夜 松乃花 みるみる みるみる

十 霞 八重庭 赤乃衣 赤乃衣

白魚 下徳 青苔

葩庭 山椒乃枝 野老

霞乃洞 喜味気成

二月

仲ま 夾後 妙見月 小正月

中和節 相見 警心 誓節 陽中 初午

東福寺 せんがう 日水間寺初午 本妙寺

泰 初午 執生子 乃 雛 終て入て 糸乃 送と

釋奠 二月十日孔子 春日祭 園井 韓神

大原野祭 上卯日 初年祭 曾大林文政

紙園御八講 八日 列見 十日

吉野乃餅くらり 朔

度乃 糸乃 行りやもり 糸乃

云 糸乃 糸乃 行りやもり 糸乃

云 糸乃 糸乃 行りやもり 糸乃

云 糸乃 糸乃 行りやもり 糸乃

此良乃八講 カクニヤ 萩の法 ハギノホウ 二月堂の心 ニゲツドウノココロ

遺教の經 ユイキョウノキヤウ 佛乃別 ホツトクノワケ 二月八日 ニゲツハチノヒ 佛 ホツトク

源柱炬 ゲンジュキウ 真福寺 マホクジ 考 カウ 永 エイ 日 ヒ 積塔 シキトウ 十六日 ジュウロクノヒ

治世耳酒 シヤセニルサウ 法 ホウ 龍月 リウゲツ 法 ホウ 日 ヒ 後の成乃日 ノチノヒ

寺取勝會 ジキリシヤウ 十九日 ジュウユウノヒ 法 ホウ 同系 ドウケイ 天王寺之聖 テンノウジノホウ

靈 リョウ 北野 キタノ 法 ホウ 道明寺 ドウメイジ 波岸 ハシ 時 トキ 宗 ソウ

季 キ 讀經 ドクキヤウ 二日 ニヒ 灸 シユ 同出替 ドウシュカヘ 波岸 ハシ 時 トキ 宗 ソウ

躍念佛 ウツクニブツ 踏 フミ 哥 カ 乃 ノ 後宴 ノチノウケ 三日 サンニヒ 乃 ノ 内宴 ウチノウケ

事 コト 蛇穴 ヘビアナ 出 デ 子 コ 花 ハナ 乃 ノ 鳩 トビ 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 鴉 カラス 紙子 シシ 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス 乃 ノ 巢 ス

三月

你生を又月は三月まの月 善ま 善深
季美 中始 古洗 満月 加月 表死

巳乃月候々々 上巳上巳日水まきうそくへく疾癒を
乃そくワまきくや今三月二日と用て巳日と用

次乃竹まき 毛ハ支原氏決人た建たき
己乃日陰御所まね御まの校あう 曲水代宴

盆とあひめり共 桃乃節 三日 桃乃酒等解 遠解
さくの乃らる 結合いひまの柳うら

油花下 三月 二日 龍や鳳凰を舞ひくら
どくそくト垂まらる ちんちんをまき

夜の更毎果まらる ちんちんをまき
まき 三日 ちんちん人の中 冥生るなるの高
まき 三日 ちんちん人の中 冥生るなるの高

薬師寺の最勝會 日 石清水院乃祭 中世乃日
イハレニツツリニレ 中世乃日

法花系 毛ハまきあうの疫邪をまき
法明の節乃カラモハカ 毛食

まき 二日とまき 杏乃粥 毛食
まき 二日とまき 杏乃粥 毛食

飯丸 鞆乃裁 半仙のころ
飯丸 鞆乃裁 半仙のころ

檜乃火とまき 毛もまき
檜乃火とまき 毛もまき

石取 日 栗乃祭 日 一茶寺祭 五日
石取 日 栗乃祭 日 一茶寺祭 五日

泉涌寺の完心忌 八日 水尾祭 九日 高雄法花云 十日
泉涌寺の完心忌 八日 水尾祭 九日 高雄法花云 十日

安良丸 日 吉野云式 十一日 孔拜講 十二日 祇園一切
安良丸 日 吉野云式 十一日 孔拜講 十二日 祇園一切

経會 日 比良祭 日 壬生念佛 十四日
経會 日 比良祭 日 壬生念佛 十四日

六日

小南子よ... 桃中符 五日 赤靈符 五日

百薬と... 蘭湯と... 音

象の表... 果はちぐさの... 音

能給言とらふ... 水馬... 音

駿河音... 九近のま... 音

伊の虎と... 平地... 音

神水... 笑成乃... 音

今宮祭... 室の神祭... 音

有云日... 最勝講... 音

芒行乃... 夏至... 音

...

...

...

...

...

...

...

紙園會 七日 辰日終 小いさりやと 月をこ 雲をこ二

郭巨山 孟宗山 翠峰山 ともて川やま 山をこらと ちをこ

山が山 白糸山 若山 花遊人山 二山神山 二山若山

久小後まのる社より 山系 東極の山 諸所より 神雲をせ

まを 同 十日 鶴ヶ島 山 山をこ 山をこ 山をこ

山をこ 同 後の行者 すすく 山をこ 山をこ 山をこ

山をこ 同 十日 舟まらり 十日 焚回系 十日

山をこ 同 十五日 船灯の山 十日 山をこ 十日

山をこ 同 十五日 竹生傳の系 十日 山をこ 十日

山をこ 同 十五日 御守の懺法 十日 紙園渡の系 十日

山をこ 同 十六日 伊勢系 十日 山をこ 十日

多まらり 十六日 志渡寺系 十日 度取の系 十日

富士詣 一日より 糸の市 佛子洗詣 十日より

鞍馬の竹切 九日 志守子日詣 橋立系 九日

天護大神の御後 九日 大坂屋の系 九日

加茂水無月入 九日 佐吉の御後 九日

加茂清まつり 十日 山折 十日 山をこ 十日

大坂 十日 山折 十日 山をこ 十日

菅貫 十日 山折 十日 山をこ 十日

茅の輪 は本年は大王様は夏は 夏 は かく は まく は

川 は 神 を ま り 小 の 蠅 を 神 の

五 の 神 は 火 の 家 は 北 日 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

道 の 家 は 日 の 四 角 東 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

み の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

本 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

小 の 暑 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

大 の 暑 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

腐 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

天 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

出 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

汗 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

日 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

新 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

水 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

新 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

水 の 家 は 日 の 土 の 神 の 人 を 土 の 神 の 角 の 角 の

葛根 干飯 明 者 黄 冷 赤 白 浸 葛 根
 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子
 李 梅 檜 百 月 紅 梅 子 梅 子 梅 子 梅 子
 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮
 浮 骨 浮 骨 浮 骨 浮 骨 浮 骨 浮 骨
 仙 雲 仙 雲 仙 雲 仙 雲 仙 雲 仙 雲
 茵 茵 茵 茵 茵 茵 茵 茵 茵 茵
 漢 草 虎 尾 の 花 風 蘭 狗 脊 草 銀

寶 珠 麒麟 草 芥 子 一 詔 青 石 灯
 赤 草 水 麻 甘 石 荷 葛 根 根
 乃 花 香 薷 散 蒜 乃 根 瓜 瓜
 尺 豆 乃 花 瓢 草 小 角 豆 ね づ 雲 雀
 鷓 鴒 鷹 蟬 蠅 虫 蛇

蜘蛛 毛虫 金童子 蜘蛛 川守 世にわし

蜻蛉 蜻蛉 海月 海月 沖繪 友

雷乱 掛香 任右 躍 藍川 四月

楮 楮 秋乃 講 秋乃 講 秋乃 講

〇秋 白藏 昊天 金高 明景 爽籟

七月

七月 七月 七月 七月 七月 七月 七月 七月

立秋 立秋 初涼 初涼 儀暑 日 秋 此

葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉 葉

一葉 一葉 一葉 一葉 一葉 一葉 一葉 一葉

楸 楊 楸 楊 楸 楊 楸 楊

七日 七日 七日 七日 七日 七日 七日 七日

早 早 早 早 早 早 早 早

手 手 手 手 手 手 手 手

素 素 素 素 素 素 素 素

二 二 二 二 二 二 二 二

燈のり夜 産屋は忌 毛巧天 此のて 巧針 此のて

七箇池 百鬼の世 芋乃袋 此のて 提乃葉 此のて

本願寺門跡乃袋 此のて 七日月御命供 内膳司

本願寺門跡乃袋 此のて 蓮乃 此のて

飛多野家七夕乃鞠 此のて 道泰 此のて

炭入 此のて 珠舎 此のて 道泰 此のて

核炭 此のて 道泰 此のて

清水寺千日未日 此のて 中元日 此のて 孟蘭盆 此のて

墓 此のて 身玉 此のて 加多躍 此のて

新綿 此のて 盆 此のて 盆 此のて

盆 此のて 盆 此のて 盆 此のて

盆 此のて 盆 此のて 盆 此のて

盆 此のて 盆 此のて 盆 此のて

盆 此のて 盆 此のて 盆 此のて

上

二十五日 今ハ
二月十五日

解夏草 葎を一つして且敷く置ていふて花火 水

うけ草 又箱のまきこも 地蔵草 九音 ころも

糸 七七日 みのさし 徳を化 徳のふも 徳をくち

御具糸 出 相撲 是ともま

痔 ちりあ 神のあ 考 考れまうき 考を入

編妻 乃ら心暑さ

秋風 律乃心暑さ 初角身入

ひやう 爽 扇置 秘 本 橙 草花

とま 女所花 羽衣 夕親の

実 萩 萩のあしき 睡衣ま 萩秋殿

萩 萩のあしき 白糸 萩をうぬ

芭蕉 小車乃花 桔梗 大み草

萩 萩のあしき 萩の上風 萩のあしき

相撲草 似る羽衣

茶師草 公羽草

...

下もみ祭 十日 例幣 十日 住
 吉市 十三日 白河祭 十三日 後坊名月
 十三夜 三日月 粟倉祭 十四日
 十五夜 月 天馬一祭 十五日 粟倉祭
 十九日 小倉祭 廿一日 度會新嘗
 二十日 神田明神祭 同日 度會新嘗
 十六日 愚波祭 同日 山口祭 同日 度會新嘗
 十八日 安利女祭 同日 高辻 儀夷
 十九日 八幡花乃取 同日 城南寺祭 同日
 二十日 八幡花乃取 同日 城南寺祭 同日

天王寺技縁灌填 廿二日 左奈祭 廿二日 後祭 廿二日
 天満病流馬 廿五日 本懐祭 廿四日 鹿島祭 廿四日
 送給奈 廿六日 福五神祭 廿八日 唱遊 廿八日
 奈 廿八日 付村 廿七日 野々喜乃別 廿九日 桂川の御極 廿九日
 定霜乃節 九月 荏蛤とある 糸乃りせ
 菊 百葉 荏草 荏草 大向 御楊妃 身草 全同貫
 廿九日 残菊 十日 九月小袖
 菊重衣 紅葉衣 霜降乃節 九月

哉カキ獸シとまの子紅ニ葉ダ と尺支まらみうらちうりる

木カキ葉ニ 紅葉の樹 梅ウメの葉 カクワモミナ 櫻ウツギの葉 カクワモミナ 新

木カキ葉ニ と枝こし 柘カキ まろこし 檀モミ まろこしのうら 柘カキ まろこしのうら

柘カキ まろこしのうら 向スルテ膠ニ木カキ乃カキ紅ニ葉ダ まろこしのうら

柘カキ まろこしのうら 向スルテ膠ニ木カキ乃カキ紅ニ葉ダ まろこしのうら

柘カキ まろこしのうら 向スルテ膠ニ木カキ乃カキ紅ニ葉ダ まろこしのうら

柘カキ まろこしのうら 向スルテ膠ニ木カキ乃カキ紅ニ葉ダ まろこしのうら

柘カキ まろこしのうら 向スルテ膠ニ木カキ乃カキ紅ニ葉ダ まろこしのうら

雲ウ乃ニ播ハ まろこしのうら 果カキ李ニ乃カキ まろこしのうら 板カキ板カキ まろこしのうら 榎カキ

胡桃ク 梨カキ まろこしのうら 榛カキ 圓カキ栗カキ まろこしのうら ひカキえカキ 松カキ子カキ

橡カキ乃カキ まろこしのうら 西カキ海カキ乃カキ まろこしのうら 松カキ穀カキ まろこしのうら 美カキ子カキ 梅カキ檀カキのカキ

突カキ乃カキ まろこしのうら 野カキ心カキ銘カキ まろこしのうら 南カキ天カキ乃カキ突カキ まろこしのうら 梅カキ檀カキのカキ

橙カキ 野カキ心カキ銘カキ まろこしのうら 南カキ天カキ乃カキ突カキ まろこしのうら 梅カキ檀カキのカキ

柘カキ まろこしのうら 仙カキ蓼カキ まろこしのうら 草カキ村カキ乃カキ まろこしのうら 薄カキ乃カキ まろこしのうら

柘カキ まろこしのうら 仙カキ蓼カキ まろこしのうら 草カキ村カキ乃カキ まろこしのうら 薄カキ乃カキ まろこしのうら

柘カキ まろこしのうら 仙カキ蓼カキ まろこしのうら 草カキ村カキ乃カキ まろこしのうら 薄カキ乃カキ まろこしのうら

柘カキ まろこしのうら 仙カキ蓼カキ まろこしのうら 草カキ村カキ乃カキ まろこしのうら 薄カキ乃カキ まろこしのうら

の七十一

おひらきを 燻糟と食 一日夜よ荊楚 進炉炭 燻糟會

燻糟 一日夜よ都の法人 亥子乃餅 十月 立冬 十月

冬立 冬らき 村場治 昔 残菊葉 五日

従てはをさふ事 達入 昔 十夜乃云 十五日

真福寺法 念 首維 念 金比 念 念土日

御新講 十三日 下元日 十月 水宮 念 元

東福寺 念 忌日 十六日 夷講 九日 大法 念 事 中

神集 出来 神乃留主 念 神速 念 小宮 念

十月 法務の大業云 十月 燻用 燻用

火桶 桑乃 念 物 念 霜 念 木 念

此何雨 念 赤 念 柳 念 冬 念

青女 念 葉 念 木 念

お祭 念 柳 念 冬 念

橘野 念 葉 念 木 念

萩 念 葉 念 木 念

枇杷 念 葉 念 木 念 冬 念

曆表

一日

朔旦冬至

十一月朔日冬

芝居新入世

一陽乃志節

十月八日

陽乃志節

十月八日

宮源を流

履と妖子

履と妖子

履と妖子

履と妖子

履と妖子

桐堂

桐堂

桐堂

桐堂

桐堂

宗像系

上中

山科系

上巳

平野系

系

同日

當川系

車川系

春日

宮系

上中

尚宗系

中心系

松尾系

大原野系

中子

園韓神系

中中

吉田系

日者系

同日

五節

中中

長基

殿上流

碎

日

将乃使

将乃使

将乃使

豊明節舍

中辰

日

新掌系

新掌系

新掌系

日吉院

乃系

中申

加茂院

乃系

乃系

三條御神系

下中

御

里神系

小忌衣

小忌衣

東

東

東

東

東

東

ヒカケ 日蔭の糸 日蔭の糸 神カニ乃シ歆 カニシ 巧ア知チ女

庭燎 ニハヒ 探物トモ奇 探物奇 林ハヤシ乃シ歆 林乃歆 杖ツチ盤ハタ弓

地チ氣キ乃シ歆 地氣乃歆 心ココロ乃シ歆 心乃歆 大オホ新ニハ張ハ乃シ歆 大新張乃歆 夫人フウジン中ナカ乃シ歆

井イ乃シ歆 井乃歆 小コ乃シ歆 小乃歆 法ホウ乃シ歆 法乃歆 大オホ乃シ歆 大乃歆 角カク乃シ歆 角乃歆 大オホ乃シ歆 大乃歆 乃シ歆 乃歆

千歳 チサイ 早歌 サカガ 星 ホシ 乃シ歆 星乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

事 コト 廿二日 ニニジツ 御 ミコト 乃シ歆 御乃歆 三乃ミ乃シ歆 三乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

宇ウ乃シ歆 宇乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆 乃シ歆 乃歆

〇上

〇八十二

光世の心を素一武田の心なりと云ふは遠く
ゆく七歌の心なりと云ふは作の旨なりと云ふは
此作者の心なりと云ふは初乃の心なり
此等心ありてを奉る此等乃の心なりと云ふは
文字を繕ふ

●百韻月夜定座

頁八の 七の月夜定座
二面五の 十三の月夜定座
三面十の 二の月夜定座

裏十四の 十の月夜定座
二裏十四の 十の月夜定座
三裏十四の 十の月夜定座

●百韻月夜定座

百韻月夜乃の心なりと云ふは初乃の心なりと云ふは
乃の心なりと云ふは初乃の心なりと云ふは

●四十四

と云ふは初乃の心なりと云ふは初乃の心なりと云ふは
三乃の心なりと云ふは初乃の心なりと云ふは

●歌仙代巻

面六の 五の月夜定座
裏十二の 十の月夜定座
名残面十二の 十の月夜定座
名残裏十二の 十の月夜定座

●物言書の様

夏末店よりゆく貴人宗道跡あるが今世の世に死に侍るは
 くらひのりとしれしてせうきく文書にさへく人の死に
 書方美人の今世のありさるる方よりわく一老に
 願ふは我をばかしく何れおくおきて死にたあか
 書にわくおれとておの今世の書とてく人
す 右三十七歳下
左 宗道は比死し
 筆と二書よりくしれくをんを又書にたし
す 後縁紙
 とくしんの中二枚と区別はたして死に書よ入て床な
 際おの書のありはまへく一書に下二

一柳葉は飛越めきり好も人柳葉とていふは
 むち乃陽分まへく一上よりく柳柳ありく
 考は美人の市ありてはつもの様は
 懐命とておて落化と誹諧之連歌と書く

是縁は書物ゆれ左
紙張は六枚あり

其れもふいふ
 宗道は宗道一書をわかれより痛くして宗道は
 又納めらるる又宗道と痛くして宗道とては下
 多しといふおの書よたづくは深し
 久の懐命一面より成るる書と後事
 建泰の人よはふあはるる事
 高むらり打城まで板あり

宛々の内面にて

一宛々の内面にて六生れぬの之其席乃其長真の宛々の内

第二宛々の内面にて今迄宛々の内にて

三宛々の内面にて宛々の内にて考人雪月宛々の内にて

懐帝面の内面にて宛々の内にて

のり宛々の内面にて宛々の内にて

懐帝を宛々の内にて宛々の内にて

宛々の内にて宛々の内にて

宛々の内にて宛々の内にて



